

# デーヴォ ガイド



**2022.10.10-16**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior  
Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II  
Peter 3:18

## LTG ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

## 10日 月曜

### 創世記

32:21 こうして贈り物は彼より先に渡って行ったが、彼自身は、その夜、宿営にとどまっていた。

32:22 その夜、彼は起き上がり、二人の妻と二人の女奴隷、そして十一人の子どもたちを連れ出し、ヤボクの渡し場を渡った。

32:23 彼らを連れ出して川を渡らせ、また自分の所有するものも渡らせた。

32:24 ヤコブが一人だけ後に残ると、ある人が夜明けまで彼と格闘した。

32:25 その人はヤコブに勝てないのを見てとって、彼のもの関節を打った。ヤコブのもの関節は、その人と格闘しているうちに外れた。

32:26 すると、その人は言った。「わたしを去らせよ。夜が明けるから。」ヤコブは言った。「私はあなたを去らせません。私を祝福してくださいさなければ。」

32:27 その人は言った。「あなたの名は何とのか。」彼は言った。「ヤコブです。」

32:28 その人は言った。「あなたの名は、もうヤコブとは呼べない。イスラエルだ。あなたが神と、また人と戦って、勝ったからだ。」

32:29 ヤコブは願って言った。「どうか、あなたの名を教えてください。」すると、その人は「いったい、なぜ、わたしの名を尋ねるのか」と言って、その場で彼を祝福した。

32:30 そこでヤコブは、その場所の名をペヌエルと呼んだ。「私は顔と顔を合わせて神を見たのに、私のいのちは救われた」という意味である。

32:31 彼がペヌエルを通り過ぎたころ、太陽

は彼の上に昇ったが、彼はそのものために足を引きずっていた。

32:32 こういうわけで、イスラエルの人々は今日まで、もの関節の上の、腰の筋を食べない。ヤコブが、もの関節、腰の筋を打たれたからである。

川を渡ることは危険が伴いますし、賊やエサウからの攻撃を受けるかもしれませんから、ヤコブは目立たない夜のうちに家族を渡らせたと思われまます。彼が1人残ったのは、神に祈る必要を切に感じたからでしょう。格闘とは神様との祈りの真剣勝負を表します。

「ある人」とは、後に「神と戦って」とありますから、それは神ご自身であり、その臨在を人間として表したのでしょう。またはヤコブには実際に人間のように感じたのかもしれませんが、しずれにしてもヤコブは神に対して、今こそ祈って答えをもらわなければ、この先生きて行けないという切実な思いで相対したのです。

神様のご計画に興味がなかったり、またそれに沿わない人は人生の意味を持てず、また本当の祝福をいただくことは望みません。そして神様のご計画に生きようとする人は、その使命を果たすために成長し聖められる必要が出てくるのです。それは痛みも伴いますが、後にすばらしい祝福の人生、人間関係、生きがいとなるものです。

ヤコブはここで神様からの祝福をもらいました。そこにいくつもの真理の恵があります。第一に、ヤコブは神の計画に進んでいました。全人類を祝福するという神の計画ゆえ、その導きに従ってきたのです。それゆえここで自分が変わる必要があったのです。神の計画に生きていない人は自分にとって楽な立場でいられるので、成長すべき必要が起きてきません。

第二に、神に1人で相対しました。人のことばや気になる態度、または期待や助けなどは頭から離れることはないでしょうが、誰かの存在が大き



くなりすぎて神様を見失うということがよくあるのです。神様だけが特別な存在です。

第三に、「去らせません」という真剣な態度です。「祈っているからいい」というあいまいなものではなく、「何としても」という、神様だけに迫る信頼です。

第四に、ものつがいという「自分の力」を失ったことで、神に頼るようになったことです。神様の計画はサタンとの戦いでもあり、また人間の知恵の及ばない霊的な面での戦いでもありますから、人間の力では必ず破綻してしまいます。神の力で生きる以外にないのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 11日 火曜

### 創世記

33:1 ヤコブが目を上げて見ると、見よ、エサウがやって来た。四百人の者が一緒であった。そこで、ヤコブは子どもたちを、レアとラケルと二人の女奴隷の群れに分け、  
33:2 女奴隷たちとその子どもたちを先頭に、レアとその子どもたちをその後に、ラケルとヨセフを最後に置いた。  
33:3 ヤコブは自ら彼らの先に立って進んだ。彼は兄に近づくまで、七回地にひれ伏した。  
33:4 エサウは迎えに走って来て、彼を抱きしめ、首に抱きついて口づけし、二人は泣いた。  
33:5 エサウは目を上げ、女たちや子どもたちを見て、「この人たちは、あなたの何なのか」と尋ねた。ヤコブは、「神があなた様のしもべに恵んでくださった子どもたちです」と答えた。  
33:6 すると、女奴隷とその子どもたちが進み出て、ひれ伏した。  
33:7 次に、レアも、その子どもたちと進み出て、ひれ伏した。最後に、ヨセフとラケルが進み出て、ひれ伏した。  
33:8 するとエサウは、「私が出会ったあの一群すべては、いったい何のためのものか」と尋ねた。ヤコブは「あなた様の好意を得るためのものです」と答えた。  
33:9 エサウは、「私には十分ある。弟よ、あなたのものは、あなたのものにしておきなさい」と言った。  
33:10 ヤコブは答えた。「いいえ。もしお気に召すなら、どうか私の手から贈り物をお受け取りください。私は兄上のお顔を見て、神の御顔を見ているようです。兄上は私を喜んでくださいましたから。



33:11 どうか、兄上のために持参した、この祝いの品をお受け取りください。神が私を恵んでくださったので、私はすべてのものを持っていますから。」ヤコブがしきりに勧めたので、エサウは受け取った。

ヤコブの態度に関しては、「福音的」な聖書解釈でも評価が二つに分かれます。ある註解者は「ヤボクの神体験があったのにまだエサウを恐れ、しかも家族への愛に優劣があり、そしてエサウの好意を得ようとへつらっている」と解釈し、別の註解者は「ヤボクでの神体験ですっかり変わって、自分が先頭に立って危険を受けようとし、謙遜にエサウに接し、感謝の贈り物を惜しみなくしている」と解釈します。

では神様は何を語っておられるのでしょうか。わからない部分まで決め付けてしまって、それを前提に解釈することはできません。ただ、わかっていることは、ヤコブもエサウも再会で抱き合い泣いたことです。また後に父の葬儀は一緒に行ったのです。二人の間にはわだかまりはなくなっただけで、問題にならないくらいに小さくなりました。これはやはりヤコブが神の計画に従い、祈りで神に肉薄し、彼の信仰をご存知である神様がエサウの憎しみの心に働いてくださったに違いないのです。

もちろんヤコブが完全な人になったわけではありません。「何が起きても主がおられる」という信仰が与えられても、最悪の事態に備える必要はありますし、「自分は主のために生きる」と献身しても、家族をないがしろにはできません。感謝の贈り物は互いのため、すなわち自分自身のためにもなるのです。

私たちもヤコブのように神の計画と約束、そして自分を変えて聖いものとなる歩みをする者ですが、それらは理想の人生・完璧な自分中ではなく、葛藤や困難な中で実現してゆくものなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願ひなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 12日 水曜

### 創世記



33:12 エサウが、「さあ、旅を続けて行こう。私があなただのすぐ前に行くから」と言う。

33:13 ヤコブは彼に言った。「あなた様もご存じのように、子どもたちは弱く、乳を飲ませている羊や牛は私が世話をしています。一日でも、ひどく追い立てると、この群れはすべて死んでしまいます。」

33:14 あなた様は、しもべより先にお進みください。私は、前を行く家畜や子どもたちの歩みに合わせて、ゆっくり旅を続け、あなた様のもと、セイルへ参ります。」

33:15 それで、エサウは言った。「では、私と一緒にいる者の何人かを、あなたのもとに残しておくことにしよう。」ヤコブは言った。「とんでもないことです。私はご主人様のご好意を十分に受けております。」

33:16 エサウは、その日、セイルへ帰って行った。

33:17 一方、ヤコブはスコテへ移動し、そこで自分のために家を建て、家畜のためには小屋を作った。それゆえ、その場所の名はスコテと呼ばれた。

33:18 こうしてヤコブは、パダン・アラムからの帰途、カナンのあるシェケムの町に無事に着き、その町の手前で宿営した。

33:19 そして、天幕を張った野の一面を、シェケムの父ハモルの息子たちの手から百ヶシタで買い取った。

33:20 彼はそこに祭壇を築き、それをエル・エロヘ・イスラエルと呼んだ。

し、またセイルへ行くと言いながら、嘘をついてスコテへ行ったのは、神体験をしながらまだ信仰によって歩んでいないという解釈があります。一方、ヤコブは家族と一行を思いやり、エサウに恐縮し、そして約束はしたもののセイルは約束の地ではないと信仰によって思い返した、つまり神体験の賜物という解釈です。

実際はその両方、または中間であると考えた方がよいでしょう。地上にあっては誰も完全な人間になることはできません。ヤコブも腿のつがいが外されるほどに神と祈りの真剣勝負をして、自分の力ではなく神の力によって生きるようにされました。それは事実です。しかしそれで完璧な信仰を持ったわけではありません。

私たちが神様に導かれたり訓練されたりして、自分は成長できたという体験があるでしょうが、それをもって自分は常に正しいということとはできないのです。

ヤコブはスコテに住みシェケムから土地を買って住みました。それは後で記されているように交易のため、財産のためだったのです。それで本来帰るべき故郷ではなく、別の土地に住んだのでした。神は異教の人々と一線を画すように言われたが、ヤコブはそれをしませんでした。後にそれは異教的倫理観による事件となってしまうのです。

自分と家族を守り、また神様のご計画に生きるなら、神にいいかげんに従うのではなく、しっかりと従うことです。過去の神体験、恵みの証し、成長は今をどう生きるかで、その価値が決まるのです。主の御心を行いましょ。そのために私たちに聖書があります。、聖書を通して主は、日々語られるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

ここでもヤコブの態度については解釈が二つに分かれます。エサウを警戒して関わるのを避けようと



## 13日 木曜

### 創世記



34:1 レアがヤコブに産んだ娘ディナは、その土地の娘たちを訪ねようと出かけて行った。  
34:2 すると、その土地の族長であるヒビ人ハモルの子シェケムが彼女を見て、これを捕らえ、これと寝て辱めた。  
34:3 彼はヤコブの娘ディナに心を奪われ、この若い娘を愛し、彼女に優しく語りかけた。  
34:4 シェケムは父のハモルに言った。「この娘を私の妻にしてください。」  
34:5 ヤコブは、シェケムが自分の娘ディナを汚したことを聞いた。息子たちは、そのとき、家畜を連れて野にいた。それでヤコブは、彼らが帰って来るまで黙っていた。  
34:6 シェケムの父ハモルは、ヤコブと話し合うためにやって来た。  
34:7 ヤコブの息子たちは野から帰って来て、このことを聞いた。息子たちは心を痛め、激しく怒った。シェケムがヤコブの娘と寝て、イスラエルの中で恥辱となることを行ったからである。このようなことは、してはならないことである。  
34:8 ハモルは彼らに語りかけた。「私の息子シェケムは、心からあなたがたの娘さんを恋い慕っています。どうか娘さんを息子の嫁にしてください。」  
34:9 私たちは互いに姻戚関係を結びましょう。あなたがたの娘さんを私たちに下さり、私たちの娘をあなたがたが迎えてください。  
34:10 そうして私たちとともに住んでください。この土地は、あなたがたの前に広がっています。ここに住み、自由に行き来し、ここに土地を得てください。」  
34:11 シェケムは彼女の父や兄弟たちに言っ

た。「皆さんのご好意を得られるのなら、おっしゃる物を何でも差し上げます。  
34:12 どんなに高い花嫁料や贈り物であっても、私にお求めください。おっしゃるとおりに差し上げます。ですから、どうか、あの人を私の妻に下さい。」  
34:13 ヤコブの息子たちは、シェケムが自分たちの妹ディナを汚したので、シェケムとその父ハモルをだまそうとして、  
34:14 答えた。「割礼を受けていない者に私たちの妹をやるような、そんなことは、私たちにできません。それは、私たちにとって恥辱となることですから。  
34:15 ただし、次の条件でなら同意しましょう。もし、あなたがたの男たちがみな、割礼を受けて、私たちと同じようになるなら、  
34:16 私たちの娘たちをあなたがたに嫁がせ、あなたがたの娘たちを妻に迎えましょう。そうして私たちはともに住み、一つの民となりましょう。  
34:17 しかし、もし、あなたがたが私たちの言うことを聞かず、割礼を受けないなら、私たちは娘を連れてここを去ります。」

ヤコブの妥協的な信仰、また神への従順の不徹底が悲劇を生みました。神様はヤコブに父の家督を受け継いで、その約束と使命を果たさせようとなさり、ヤコブはそのためにラバンのもとから出発しました。またかつての罪ゆえに敵対関係にあった兄との再開・和解を果たし、そのためにはヤボクの渡しで、すばらしい神体験と約束を得たのです。しかし最後一步のところで、ヤコブは不従順にも父の所まで帰らず、その手前に住んでしまったのです。この異教の地で、娘ディナが強姦されてしまいました。  
ここでは娘を「捕らえ…寝て辱めて」から結婚

するという、非倫理的な結婚が行われていたのです。そのような土地に住んでしまったのはヤコブの霊的な感覚が鈍っていたからだと思われます。

なぜ鈍ってしまったのでしょうか。ヤコブは過去の恵の体験、また過去の自分の信仰の行いに満足していたのかもしれませんが。「これで十分」と思うと、私たちがその後の大切な導きに従えず、成長の機会を生かせなくなります。過去に満足しきってしまわないで、今を生きましよう。今生きて導いてくださる主に聞いてゆきましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 14日 金曜

### 創世記



34:18 彼らの言ったことは、ハモルと、ハモルの子シェケムの心になかった。  
34:19 この若者は、ためらわずにそれを実行した。彼はヤコブの娘を愛していたからである。彼は父の家のだれよりも敬われていた。  
34:20 ハモルとその子シェケムは自分たちの町の門に行き、町の人々に告げた。  
34:21 「あの人たちは私たちに友好的だ。あの人たちをこの地に住ませ、この地を自由に行き来させよう。この地は、彼らが来ても十分広いのだから。私たちは彼らの娘たちを妻に迎え、私たちの娘たちを彼らに嫁がせよう。  
34:22 次の条件でなら、あの人たちは、私たちとともに住んで一つの民となることに同意すると言うのだ。それは、彼らが割礼を受けているように、私たちのすべての男たちが割礼を受けることだ。  
34:23 そうすれば、彼らの群れや財産、それにすべての彼らの家畜も、私たちのものになるではないか。さあ、彼らに同意しよう。そうすれば、彼らは私たちとともに住むことになる。」  
34:24 その町の門に出入りする者はみな、ハモルとその子シェケムの言うことを聞き入れ、その町の門に出入りする男たちはみな割礼を受けた。  
34:25 三日目になって、彼らの傷が痛んでいるとき、ヤコブの二人の息子、ディナの兄シメオンとレビが、それぞれ剣を取って難なくその町を襲い、すべての男たちを殺した。  
34:26 彼らはハモルとその子シェケムを剣の刃で殺し、シェケムの家からディナを連れ出

した。  
34:27 ヤコブの息子たちは、刺し殺された者のところに来て、その町を略奪した。自分たちの妹が汚されたからである。  
34:28 彼らは、その人たちの羊や牛やろば、それに町にあるもの、野にあるものを奪い、  
34:29 その人たちの全財産、幼子、妻たち、家にあるすべてのものを捕虜にしたり略奪したりした。  
34:30 それで、ヤコブはシメオンとレビに言った。「あなたがたは私に困ったことをして、私をこの地の住民カナン人とペリジ人に憎まれるようにしてしまった。私は数では劣っている。彼らと一緒に集まって私を攻め、私を打つなら、私も家の者も根絶やしにされてしまうだろう。」  
34:31 彼らは言った。「私たちの妹が遊女のように扱われてもよいのですか。」

ヤコブの息子たちは、この土地の非倫理的な行いに負けないほどの不義によって、殺人を犯しました。ここに至までには、ヤコブの不信仰もまた影響しています。それはヤコブの優先順位です。この土地は交通の要所で交易が盛んな富んだ所でした。30節にヤコブが定住を考えていたことがわかります。彼は自分と家族を豊かにし安定を図りたかったのです。そのために倫理基準の低い（ハモルの対処でわかります）異教の地で悲劇が生まれました。神を優先にすべきなのです。またヤコブの日常の信仰態度です。不信者の中に生きる霊的な警戒がなく、それが娘の無警戒な行動を生むことの要因にもなったと考えられます。そして息子達は神様が定めた尊い割礼を復讐の道具にしようとします。ヤコブは先ず自らの神への不従順を悔い改めるべきでしょう。私たちも、直接自分が罪を犯していなくても、

不信仰な生き方が遠因になっている場合がありますから、そこは主に聞いて悔い改める必要がある場合もあります。聖霊によって気づかせていただく必要があるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 15日 土曜

### 創世記



35:1 神はヤコブに仰せられた。「立って、ベテルに上り、そこに住みなさい。そしてそこに、あなたが兄エサウから逃れたとき、あなたに現れた神のために祭壇を築きなさい。」

35:2 それで、ヤコブは自分の家族と、自分と一緒にいるすべての者に言った。「あなたがたの中にある異国の神々を取り除き、身をきよめ、衣を着替えなさい。」

35:3 私たちは立って、ベテルに上って行こう。私はそこに、苦難の日に私に答え、私が歩んだ道とともにいてくださった神に、祭壇を築こう。」

35:4 彼らは、手にしていたすべての異国の神々と、耳につけていた耳輪をヤコブに渡した。ヤコブはそれらを、シェケムの近くにある榎の木の下に埋めた。

35:5 彼らが旅立つと、神からの恐怖が周りの町々に下ったので、だれもヤコブの息子たちの後を追わなかった。

35:6 ヤコブは、カナンの地にあるルズ、すなわちベテルに来た。彼とともにいた人たちもみな一緒であった。

35:7 彼はそこに祭壇を築き、その場所をエル・ベテルと呼んだ。それは、彼が兄から逃れたとき、神がそこで彼に現れたからである。

35:8 リベカの乳母デボラが死に、ベテルの下手にある榎の木の下に葬られた。それで、その木の名はアロン・バクテと呼ばれた。

35:9 ヤコブがパダン・アラムから帰って来たとき、神は再び彼に現れ、彼を祝福された。

35:10 神は彼に仰せられた。「あなたの名はヤコブである。しかし、あなたの名は、もう

ヤコブとは呼ばれない。イスラエルが、あなたの名となるからだ。」こうして神は彼の名をイスラエルと呼ばれた。

35:11 神はまた、彼に仰せられた。「わたしは全能の神である。生めよ。増えよ。一つの国民が、国民の群れが、あなたから出る。王たちがあなたの腰から生まれ出る。」

35:12 わたしは、アブラハムとイサクに与えた地を、あなたに与える。あなたの後の子孫にも、その地を与えよう。」

35:13 神は彼に語ったその場所で、彼を離れて上って行かれた。

35:14 ヤコブは、神が自分に語られた場所に、柱を、石の柱を立て、その上に注ぎのぶどう酒を注ぎ、さらにその上に油を注いだ。

35:15 ヤコブは、神が自分と語られたその場所をベテルと名づけた。

「住みなさい」とありますが、長めの滞在と考えた方がよいでしょう。その目的は「祭壇を築く」礼拝にあります。また礼拝が終わるとすぐにイサクのいるヘbronに帰還しました。

ヤコブの従いの中途半端によって招いたのは娘の悲劇、息子たちの残虐な復讐、また父子の論争でした。しかし、ここでも神様がヤコブに語られます。きっとここに来てヤコブは自分の間違いや無力に気づいて祈ったのでしょうか。それはヤコブの渡しでの神体験の賜物だと思われます。

神様は問題自体の解決よりも、もっと根本的なところを主題になさいます。すなわち神様の大きなご計画と、そのためのヤコブの召しと使命、それゆえの祝福です。ヤコブはそれを知っていましたし、そのように導かれて来たはずでしたが、その信仰が停滞していたのです。それで優先順位と価値観があいまいになり、さらに一族の者たちにまで影響していたようでした。神様はそこをご覧になっていたのです。

ヤコブは主に従いました。もはや敵対する者たちも手出しすることはできませんでした。主の御心を選び取る者への守りのみわざです。そしてまた約束が更新されました。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶ 16日 日曜

### 創世記

35:16 彼らはベテルから旅立った。エフラテに着くまでまだかなりの道のりがあるとこ  
ろで、ラケルは出産したが、難産であった。  
35:17 彼女が大変な難産で苦しんでいたとき、  
助産婦は彼女に、「恐れることはありません。  
今度も男のお子さんです」と告げた。  
35:18 彼女が死に臨み、たましいが離れ去ろ  
うとしたとき、その子の名をベン・オニと呼  
んだ。しかし、その子の父はベニヤミンと名  
づけた。  
35:19 こうしてラケルは死んだ。彼女はエフ  
ラテ、すなわちベツレヘムへの道で葬られた。  
35:20 ヤコブは彼女の墓の上に石の柱を立て  
た。それはラケルの墓の石の柱として今日に  
至っている。  
35:21 イスラエルは旅を続け、ミグダル・エ  
デルを過ぎたところに天幕を張った。  
35:22 イスラエルがその地にとどまっていた  
ころ、ルベンが父の側女ビルハのところに行  
って、彼女と寝た。イスラエルはこのこと  
を聞いた。ヤコブの子は十二人であった。  
35:23 レアの子はヤコブの長子ルベン、シメ  
オン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルン。  
35:24 ラケルの子はヨセフとベニヤミン。  
35:25 ラケルの女奴隷ビルハの子はダンとナ  
フタリ。  
35:26 レアの女奴隷ジルパの子はガドとア  
シェル。これらはパダン・アラムで生まれた  
ヤコブの子である。  
35:27 ヤコブは、キルヤテ・アルバ、すなわ  
ちヘブロンに暮らしている父イサクのところ  
に着いた。そこは、アブラハムとイサクがか  
つて寄留していたところである。



35:28 イサクの生涯は百八十年であった。  
35:29 イサクは年老いて満ち足り、息絶えて  
死に、自分の民に加えられた。息子のエサ  
ウとヤコブが彼を葬った。

波乱万丈の半生でありましたが、ヤコブは神の  
計画通りに父の祝福を受け継ぐために、生まれ故  
郷に帰りました。人が意図してまとめた物語なら  
ば、それで平和に終わるところですが、聖書はそ  
うではありません。人は罪ゆえに神からの栄誉を  
受けることができなくなっているのです。つまり  
地上にあっては問題がなくなることはないのです。  
それは死の問題であり、またその原因である  
ところの罪の問題です。ここにきてラケルが死を  
迎えました。またルベンは父のそばめ(妻のような  
存在)と男女の関係を持ってしまったのです。ヤ  
コブは嘆き悲しみ、また反省もしたでしょう。

私たちの人生にも同じように、問題や困難また  
失敗や反省が尽きることがありません。しかし、  
だからこそ私たちは神様の計画に希望を持って進  
む必要があるのです。

神様は最終的にはすべての悩み苦しみを解決す  
るところの永遠の命を与えてくださいました。ま  
た悩み苦しみの世を、その主権で新しい神の国へ  
と変えてくださいます。そのためのイエス様の十  
字架であり、またそれを表すためのイスラエル民  
族とその始祖アブラハム、イサク、ヤコブです。

永遠の神の救いとそのご計画のために生きま  
しょう。そのご計画の中で自分にある尊い使命に  
気づきましょう。そしてそれを果たすために、成  
長し、聖められ、変えられて生きましょう。その  
ようにして神様の御心と近く歩むことがどんなに  
素晴らしい人生か、自ら体験して証ししていきま  
しょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の  
約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願  
いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのど  
の部分の主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

